

JA全厚連情報



能登半島地震にDMAT派遣（JA神奈川県厚生連・相模原協同病院）

目 次

□ 令和6年度事業計画（案）等について協議 事業企画委員会（保健事業部門・実務者PT）を開催	1
□ 令和6年度事業計画（案）について協議 厚生連会長会議を開催	4
□ 令和6年能登半島地震におけるJA厚生連の対応等について	5

・通信員だより

令和6年能登半島地震被災地へDMAT出動（かつの厚生病院）	28
外来待ち時間短縮に向けての取り組み（平鹿総合病院）	29
救急医療機器を充実（JA茨城県厚生連）	30
被災地へDMAT派遣（相模原協同病院）	31
伊勢原市消防出初式に参加（伊勢原協同病院）	32
南長野医療センター篠ノ井総合病院 新病院整備第2期工事竣工祝賀会 （南長野医療センター篠ノ井総合病院）	33
「検診車両2台」受贈（JA熊本厚生連）	35



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



令和 6 年度事業計画（案）等について協議 事業企画委員会（保健事業部門・実務者 P T）を開催

令和 6 年 1 月 16 日及び 17 日に、本会は大手町の J Aビルにおいて、事業企画委員会（保健事業部門・実務者 P T）を開催した。

会議では、主に① J A全厚連令和 6 年度事業計画（案）、②厚生事業に係る要請活動、③医療用物資の国備蓄品の売却事業一等について協議が行われた。

保健事業部門では、J Aグループ群馬における健康経営の取組みについて群馬県厚生連・青木常務に事例報告いただき、意見交換が行われた。

実務者 P Tでは、令和 6 年能登半島地震における J A厚生連の対応等について、委員から意見が述べられた。

1 事業計画の概要は、以下のとおりである。

- (1) 令和 6 年度が、診療報酬及び介護報酬の同時改定となることから、各部門の実務者を対象とし情報提供や意見交換の場として厚生連医療スタッフ応援プログラムの運営に取り組むこと
- (2) 新たな取組みとして、「健康経営（※）」への取組みとして、J A、連合会及び農業法人の職員の健康づくりに貢献するため、健康経営について検討（情報収集）等を行うこと

※「健康経営とは」経済産業省HP（抜粋）

「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。

健康経営は、日本再興戦略、未来投資戦略に位置づけられた「国民の健康寿命の延伸」に関する取り組みの一つです。

- (3) 法人税非課税要件の管理については、令和 6 年度に法人税非課税措置の継続に係る財務大臣の承認申請を行う厚生連が 25 に及ぶことから、これに係る本会の業務量が増加することとなる。また、申請には期限があることもあり、本会の県担当制を通じて申請手続きを支援していくこと

(4) 厚生事業審議会答申を受けた事務所移転の検討については、当該事務所の管理に係る経費の削減や会員の利便性を総合的に勘案したうえで事務所移転の検討を行っていくこと

2 令和6年度税制改正要望として、有償病床割合の見直しについて取り組んできたところであるが、12月13日に自民党税制調査会において採択されたところであり、その経緯・経過を説明した。

令和5年4月	JA全中に要望書（案）提出
5月	自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の現地視察（愛知県厚生連江南厚生病院）において、差額ベッド制限の緩和を要請
9月	自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の現地視察（北海道厚生連旭川厚生病院）において、差額ベッド制限の緩和を要請
10月	JA全中理事会において要望事項を決定
11月	自民党議員連盟「農民の健康を創る会」総会において、差額ベッド制限の緩和を要請
12月	自民党税制調査会で、差額ベッド制限の緩和が採択
12月	令和6年度税制改正大綱を閣議決定

3 厚生連からの照会事項の記録の共有については、各厚生連から連絡があった照会事項に関し、根拠等を明確にしながら対応しているところであるが、それらの共有方法や手順等について説明した。

4 保健事業部門の健康経営の取組みについては、これまで、青年部や女性部と連携した健診受診勧奨の取組みなどを進めてきたが、今後の農家の健康につなげるための「健康経営」の厚生連の取組について、意見交換が行われた。

5 実務者PTでは、令和6年能登半島地震におけるJA厚生連の対応等について、各厚生連におけるDMAT派遣対応の状況が述べられたほか、DMAT隊員から派遣に係る課題等を収集して欲しいなどの意見が述べられた。

令和 5 年度事業企画委員会 名簿（実務者 PT 部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
庄山 隆裕	三重県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

令和 5 年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

【参考】

令和 5 年度事業企画委員会 名簿（医師 PT 部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

令和6年度事業計画（案）について協議

厚生連会長会議を開催

令和6年1月30日に東京・大手町・JAビル4階において、厚生連会長会議を開催した。

会議では、令和6年能登半島地震におけるJA厚生連のDMAT（災害派遣医療チーム）の活動等について報告を行った。DMAT等の派遣は、1月29日現在で派遣総数367名（69班）となっていること、また、JA富山厚生連高岡病院及び滑川病院並びにJA愛知厚生連江南厚生病院では、被災地から患者の受入れが行われている旨の説明を行った。

議事に入り、（1）JA全厚連令和6年度事業計画（案）、（2）厚生事業に係る要請活動（令和6年度税制改正要望を含む。）、（3）厚生連の令和5年度12月末経営収支状況一等に関し報告が行われた後に協議を行った。

（1）では、令和6年度の重点実施項目について、令和6年度に第30回JA全国大会が開催されることに併せて、JA・連合会職員並びに農業の担い手となる農業法人の従業員等の健康づくりに貢献するための「健康経営」に取り組むこととし、事業計画に盛り込むことで検討していく旨の説明を行った。

また、令和6年度が、診療報酬及び介護報酬の同時改定となるため、当該改定に係る実務への対応について、厚生連職員の研修の場として老健施設、リハビリ部門及び事務部門職員それぞれを対象とした研修設定の説明を行った。

さらに、マイナンバーカードを用いて健康保険証の資格情報を取得できる仕組み（オンライン資格確認）に対する対応並びに法人税非課税措置に係る要件管理の徹底についても説明を行った。

（2）では、令和6年度税制改正要望に係る本会の取組経過や令和6年度与党税制改正大綱について説明を行った。

（3）各厚生連から報告があった令和5年度12月末経営収支を取りまとめ説明を行った。収支状況の動向として、事業収益は一定額の増加が継続しているものの、事業費用、特に物価高騰の影響による材料費等の増加により、事業損益は前年度を下回る見込みとなった旨説明を行った。

令和6年 能登半島地震にかかる JA厚生連の対応等について



令和6年3月1日（金）
JA全厚連

目次

1. 災害の概要

(1) 概要	2
--------	---

2. 厚生連の対応等

(1) 厚生連施設からの職員の派遣状況	3
(2) DMAT活動状況	4
(3) 被災地（石川県）からの患者受入	7
厚生労働省からの患者の受入要請	8
厚生労働省DMAT事務局からの要請	8
(4) 医療コンテナを能登半島地震の被災地へ	9
【参考】 J A 厚生連病院位置図（103病院）令和5年4月1日 時点	11

1.災害の概要

(1) 概要 [気象庁情報 (第12報) : 1月8日 14時00分 現在]

- ・ 発生日時 : 令和 6 年 1 月 1 日 16 時 10 分
- ・ 最大震度 : 震度 7 (石川県志賀町)
- ・ マグニチュード : 7.6
- ・ 震源地等 : 石川県能登地方 (輪島の東北東 30km 付近)
深さ 16km (暫定値)
- ・ 1 日 16 時以降、震度 1 以上を観測した地震が 1,219 回発生
(震度 7 : 1 回 震度 6 弱 : 1 回 震度 5 強 : 7 回 震度 5 弱 : 6 回
震度 4 : 39 回 震度 3 : 138 回 震度 2 : 343 回 震度 1 : 684 回)
- ・ 1 日に大津波警報、津波警報が発令され、2 日にすべての警報が解除

2.厚生連の対応等

(1) 厚生連施設からの職員の派遣状況 [3月1日 12時 調査時点]

DMAT等の職員の派遣 **派遣総数460名(75班)**

厚生連名	派遣元施設名	派遣内容
北海道	帯広厚生病院	8名 (2班)
	帯広厚生病院	1名 (注1)
	倶知安厚生病院	1名 (ロジ)
秋田	能代厚生医療センター	3名 (1班)
	能代厚生医療センター	1名 (JMAT)
	秋田厚生医療センター	8名 (2班)
	大曲厚生医療センター	4名 (1班)
	平鹿総合病院	4名 (1班)
	由利組合総合病院	6名 (1班)
	北秋田市民病院	5名 (1班)
	雄勝中央病院	5名 (JMAT)
	かづの厚生病院	4名 (1班)
福島	白河厚生総合病院	5名 (1班)
	白河厚生総合病院	6名 (JMAT)
茨城	総合病院土浦協同病院	10名 (2班)
	J A とりで総合医療センター	5名 (1班)
	茨城西南医療センター病院	4名 (1班)
	水戸協同病院	1名 (ナース)
上都賀	上都賀総合病院	4名 (1班)
	上都賀総合病院	1名 (ナース)
佐野	佐野厚生総合病院	5名 (1班)
	佐野厚生総合病院	1名 (ナース)
神奈川	相模原協同病院	5名 (1班)
	相模原協同病院	2名 (ロジ)
	相模原協同病院	1名 (ナース)
	伊勢原協同病院	1名 (ナース)
	伊勢原協同病院	4名 (JMAT)

厚生連名	派遣元施設名	派遣内容
長野	佐久医療センター	26名 (5班)
	佐久医療センター	2名 (ナース)
	佐久医療センター	2名 (JMAT)
	北信総合病院	19名 (4班)
	北信総合病院	4名 (ロジ)
	篠ノ井総合病院	20名 (4班)
	篠ノ井総合病院	1名 (ナース)
	あづみ病院	2名 (MSW)
新潟	糸魚川総合病院	4名 (1班)
	柏崎総合医療センター	4名 (1班)
	村上総合病院	4名 (1班)
	佐渡総合病院	10名 (2班)
富山	厚生連高岡病院	24名 (5班)
	厚生連高岡病院	1名 (-)
	厚生連高岡病院	2名 (JMAT)
	厚生連高岡病院	4名 (ロジ)
	厚生連高岡病院	9名 (技師)
	厚生連滑川病院	5名 (JMAT)
	厚生連滑川病院	1名 (技師)
岐阜	中濃厚生病院	17名 (4班)
	中濃厚生病院	1名 (臨工)
	久美愛厚生病院	11名 (2班)
	久美愛厚生病院	1名 (臨工)
	西濃厚生病院	10名 (2班)
静岡	遠州病院	1名 (技師)
	遠州病院	1名 (JMAT)
	静岡厚生病院	1名 (技師)
	清水厚生病院	1名 (技師)
愛知	安城更生病院	15名 (3班)
	安城更生病院	2名 (ナース)

厚生連名	派遣元施設名	派遣内容
愛知	江南厚生病院	11名 (2班)
	江南厚生病院	1名 (技師)
	江南厚生病院	7名 (ロジ)
	江南厚生病院	1名 (ナース)
	海南病院	12名 (3班)
	豊田厚生病院	9名 (2班)
	豊田厚生病院	1名 (-)
	豊田厚生病院	1名 (技師)
	稲沢厚生病院	5名 (1班)
	稲沢厚生病院	1名 (JMAT)
三重	知多厚生病院	5名 (1班)
	足助病院	1名 (栄養)
	松阪中央総合病院	8名 (ロジ)
	松阪中央総合病院	21名 (6班)
	松阪中央総合病院	5名 (ナース)
	鈴鹿中央総合病院	11名 (3班)
	鈴鹿中央総合病院	2名 (ナース)
	菰野厚生病院	3名 (注2)
	いなべ総合病院	5名 (1班)
	いなべ総合病院	3名 (ナース)
広島	大台厚生病院	2名 (ロジ)
	広島総合病院	4名 (1班)
	尾道総合病院	4名 (1班)
山口	周東総合病院	5名 (1班)
	長門総合病院	4名 (JMAT)
	長門総合病院	1名 (ナース)
徳島	阿南医療センター	4名 (1班)
	阿南医療センター	1名 (JMAT)
	吉野川医療センター	6名 (JMAT)

注1 医師1名(統括DMAT有資格者)が能登医療圏DMAT活動拠点本部に残り、主に病院支援や情報収集等のロジスティクスを専門とした活動を行うDMATロジスティックチームとして活動

注2 厚生連内の他病院のDMATチームに職員を派遣

注 JMAT (日本医師会災害医療チーム) として活動)、ロジ (ロジスティック (業務調整員) として活動)、栄養 (JDA-DAT (栄養士学会災害派遣) として活動)、技師 (DVT検査チームとして活動)、ナース (災害支援ナースとして活動)、JRAT (大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会として活動)、MSW (災害福祉広域支援ネットワークとして活動)

(2) 令和6年能登半島地震のDMAT活動状況 [1月31日 12時 現在]

日付	活動中のDMAT数			厚生連派遣 (全厚連調査)			
	公表時点	派遣総数	うち病院	派遣数 (総数)	派遣数 (うち病院)	厚生連の割合 (総数)	厚生連の割合 (うち病院)
1月1日	22:00	9	5	-	-	-	-
1月2日	5:00	12	7	-	-	-	-
1月2日	10:00	18	12	15	11	83.33	91.67
1月2日	14:00	27	18	15	11	55.56	61.11
1月3日	4:00	38	27	27	23	71.05	85.19
1月4日	16:00	89	68	27	23	30.34	33.82
1月5日	11:00	148	118	24	22	16.22	18.64
1月9日	12:00	153	123	16	16	10.46	13.01
1月10日	11:30	149	118	15	14	10.07	11.86
1月11日	12:00	156	117	16	13	10.26	11.11
1月12日	12:00	249	208	18	17	7.23	8.17
1月15日	12:00	206	167	10	7	4.85	4.19
1月16日	12:30	181	142	9	6	4.97	4.23
1月17日	6:00	199	162	8	6	4.02	3.70
1月18日	6:00	126	81	10	7	7.94	8.64
1月19日	6:00	166	114	9	7	5.42	6.14
1月22日	6:00	149	118	10	7	6.71	5.93
1月23日	6:00	161	125	9	7	5.59	5.60
1月24日	6:00	152	115	8	7	5.26	6.09
1月25日	6:00	152	115	7	6	4.61	5.22
1月26日	7:00	162	120	7	6	4.32	5.00
1月29日	0:00	122	87	5	4	4.10	4.60
1月30日	12:00	107	81	5	4	4.67	4.94

※ 出典：厚生労働省「石川県能登地方を震源とする地震による被害状況等について」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37198.html

※ 全厚連調査は活動日のみのため、厚労省の公表時点とは異なる。

【参考】災害拠点病院数 (令和5年4月1日時点) 770病院 (厚生連45病院5.8%)

DMATの登録医療機関数 838施設 (厚生連48病院 (5.7%)) EMISより

厚生連名	病院名	依頼元	いつから (出発日)	人員	人数	班	活動内容等
北海道	帯広	道	1/9	4名(1班)	4名	1班	1/9-1/13 公立能登総合病院集合→市立輪島病院(輪島市)へ派遣
		道	1/12	1名(医師)	1名	注	1/12-1/20 上記DMATの医師1名(統括DMAT有資格者)が能登医療圏DMAT活動拠点本部(能登総合病院内)に残り、主に病院支援や情報収集等のロジスティクスを専門とした活動を行うDMATロジスティックチームとして活動
		道	1/19	4名(1班)	4名	1班	1/19-1/25 珠州市内で1/20から1/24まで活動
		道	1/20	1名(※)	1名	ロジ	1/20-1/28 珠州市保健医療福祉調整本部にて業務調整員(ロジスティクス)として活動 1名(薬剤師)
		道	1/20	1名(※)	1名	ロジ	1/20-1/28 珠州市保健医療福祉調整本部にて業務調整員(ロジスティクス)として活動 1名(薬剤師)
秋田	能代	県	1/7	3名(1班)	3名	1班	1/7-1/10 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師1名・業務調整員(臨床工学技士)1名)
		医師会	1/14	1名(JMAT)	1名	JMAT	1/15-17 石川県保健医療福祉調整本部(石川県庁内)JMATA派遣
	秋田	県	1/7	4名(1班)	4名	1班	1/7-1/10 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師2名・業務調整員(臨床工学技士)1名)
		〃	1/17	4名(1班)	4名	1班	1/18-22 珠州市健康増進センター(医師1名・看護師2名・業務調整員(放射線技師)1名)
	大曲	〃	1/9	4名(1班)	4名	1班	1/10-1/13 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師2名・業務調整員(薬剤師)1名)
		〃	1/7	4名(1班)	4名	1班	1/7-1/10 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師2名・業務調整員(検査技師)1名)
	由利	〃	1/10	6名(1班)	6名	1班	1/10-14 能登総合病院へ派遣、1/11から公立穴水総合病院で活動(医師2名・看護師2名・業務調整員(ME・事務)2名)
		〃	1/11	5名(1班)	5名	1班	1/11-14 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師2名・業務調整員(薬剤師・放射線技師)2名)
	北秋田	〃	1/11	5名(1班)	5名	1班	1/11-15 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師1名・業務調整員(薬剤師・事務)2名)
		〃	1/11	4名(1班)	4名	1班	1/11-15 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師1名・業務調整員(薬剤師・事務)2名)
	雄勝	医師会	1/20	5名(JMAT)	5名	JMAT	1/21-23 石川県保健医療福祉調整本部(石川県庁内)JMATA派遣
		〃	1/11	4名(1班)	4名	1班	1/11-15 能登総合病院へ派遣(医師1名・看護師1名・業務調整員(薬剤師・事務)2名)
福島	白河	県	1/6	5名(1班)	5名	1班	1/7-1/9公立能登総合病院集合→輪島市内で活動(医師1名、看護師2名、業務調整員(診療放射線技師・臨床工学技士)2名)
		医師会	2/21	6名(JMAT)	6名	JMAT	2/22～2/24 能登半島地方および金沢市以南の避難所の支援、6名(医師1名、看護師3名、薬剤師1名、事務職員1名)
	茨城	〃	1/6	6名(1班)	6名	1班	1/6-1/8能登総合病院へ派遣(医師2、看護師2、事務員2)
		〃	1/19	4名(1班)	4名	1班	1/20-22(珠州市へ第6次隊追加派遣:医師1、看護師2、放射線技師1)
		〃	1/6	5名(1班)	5名	1班	1/6-1/8能登総合病院へ派遣(医師1、看護師2、臨床工学技士2)
上都賀	上都賀	県	1/7	4名(1班)	4名	ナース	1/6-1/8能登総合病院へ派遣(医師1、看護師2、事務員1)
		〃	1/7	4名(1班)	4名	ナース	1/17-22災害支援ナース派遣(1/17石川県庁集合)
	上都賀	県看護協会	1/21	1名(看護)	1名	ナース	1/7-1/9公立穴水総合病院(穴水町)を中心に活動
		〃	1/21	1名(看護)	1名	ナース	1/21-24看護師1名 災害支援ナースの派遣
	佐野	〃	1/6	5名(1班)	5名	1班	1/6-1/85名(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)派遣
神奈川	相模原	〃	1/22	1名(看護)	1名	ナース	1/22-26看護師1名 珠州市健康増進センター
		〃	1/12	5名(1班)	5名	1班	1/12-1/19公立能登総合病院集合→珠州市総合病院で活動(医師1名、看護師2名、事務2名)
	伊勢原	〃	1/30	1名(看護)	1名	ナース	1/30-2/2 派遣場所:輪島市鳳至小学校
		〃	2/8	2名(※)	2名	ロジ	2/8-2/13 石川県庁にて統括・ロジスティック業務に従事(医師1名、調整員1名)
	伊勢原	〃	2/5	1名(看護)	1名	ナース	2/5-2/8 派遣場所:輪島市鳳至小学校
長野	佐久	県	2/22	4名(JMAT)	4名	JMAT	2/22～2/25 診療支援や避難所の巡回等を行う予定(医師1名、看護師2名、事務員1名)
		〃	1/2	6名(1班)	6名	1班	1/2-1/6
		〃	1/4	5名(1班)	5名	1班	1/4-1/7
		〃	1/9	5名(1班)	5名	1班	1/9-1/14
		〃	1/23	5名(1班)	5名	1班	1/23-1/27
	北信	〃	2/9	5名(1班)	5名	1班	2/9-2/11
		〃(看護協会)	1/15	1名(看護)	1名	ナース	1/15-1/18 看護師
		〃(看護協会)	1/18	1名(看護)	1名	ナース	1/18-1/21 看護師
		〃	2/15	2名	2名	JMAT	2/15-2/19 PT1名、ST1名 長野JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会長野支部)
		〃	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/4
	篠ノ井	〃	1/4	4名(1班)	4名	1班	1/4-1/7
		〃	1/17	5名(1班)	5名	1班	1/17-1/20
		〃	2/1	5名(1班)	5名	1班	2/1-2/4
		〃	1/4	2名(※)	2名	ロジ	1/4 長野県DMAT調整本部(長野県庁)*遠隔対応(医師+ロジ)
		〃	1/11	2名(※)	2名	ロジ	1/11 長野県DMAT調整本部(長野県庁)*遠隔対応(医師+ロジ)
あづみ	〃(災害福祉NW)*	〃	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/5
		〃	1/7	5名(1班)	5名	1班	1/7-1/12
		〃	1/29	5名(1班)	5名	1班	1/29-2/2
		〃(看護協会)	1/15	1名(看護)	1名	ナース	1/15-1/18
		〃(災害福祉NW)*	1/8	1名(MSW)	1名	-	1/8-1/11 能登町の避難所応援と状況アセスメント(MSW)
	〃(災害福祉NW)*	〃(災害福祉NW)*	2/10	1名(MSW)	1名	-	※長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会(事務局=長野県社会福祉協議会)
		〃(災害福祉NW)*	2/10	1名(MSW)	1名	-	2/10-2/14 能登町の避難所支援(MSW)
		〃(災害福祉NW)*	2/10	1名(MSW)	1名	-	※長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会(事務局=長野県社会福祉協議会)
		〃(災害福祉NW)*	2/10	1名(MSW)	1名	-	2/10-2/14 能登町の避難所支援(MSW)
		〃(災害福祉NW)*	2/10	1名(MSW)	1名	-	※長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会(事務局=長野県社会福祉協議会)
新潟	糸魚川	県知事	1/9	4名(1班)	4名	1班	1/9～1/13 能登総合病院、珠州市健康増進センター
		〃	1/4	4名(1班)	4名	1班	1/4-1/6公立能登総合病院(七尾市)
		〃	1/4	4名(1班)	4名	1班	1/4-1/7輪島市内
		〃	1/4	5名(1班)	5名	1班	1/4-1/7公立能登総合病院(七尾市)、珠州市総合病院
		〃	1/6	5名(1班)	5名	1班	1/6-1/9金沢大学附属病院(金沢市)、小松市民病院、小松空港
	富山	〃	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/4公立能登総合病院→町立富山病院(志賀町)から県立中央病院(金沢市)への搬送支援
		〃	1/5	5名(1班)	5名	1班	1/5-1/8公立能登総合病院集合→輪島市内で活動
		〃	1/8	1名(医師)	1名	-	1/8-1/12医師1名、穴水町で活動(DMATインストラクターの有資格者)
		〃	1/9	5名(1班)	5名	1班	1/9-1/13公立能登総合病院を拠点に活動
		〃	1/12	1名(※)	1名	ロジ	1/12-1/19看護師1名 石川県庁にて情報収集・分析等の支援活動(DMATインストラクターの有資格者)
	〃	〃	1/14	1名(※)	1名	ロジ	1/14-1/23看護師1名 石川県庁にて情報収集・分析等の支援活動(DMATインストラクターの有資格者)
		医師会	1/16	1名(JMAT)	1名	JMAT	1/16-1/19医師1名派遣
		医師会	1/17	1名(JMAT)	1名	JMAT	1/17臨床検査技師1名派遣
		〃	1/28	6名(1班)	6名	1班	1/28-2/1石川県立中央病院にて活動(医師2名、看護師2名、事務2名)
		〃	2/1	1名(※)	1名	ロジ	2/1-2/7医師1名 穴水町で活動
富山	〃	〃	2/3	2名(技師)	2名	技師	2/3検査技師2名 現地で活動
		〃	2/4	4名(技師)	4名	技師	2/4検査技師4名 現地で活動
		〃	2/6	1名(※)	1名	ロジ	2/6-2/15看護師1名 石川県庁で活動
		〃	2/10	1名(技師)	1名	技師	2/10検査技師1名 現地で活動
		〃	2/11	1名(技師)	1名	技師	2/11検査技師1名 現地で活動
	〃	〃	2/12	3名(1班)	3名	1班	2/12-2/16医師1名、看護師2名 現地で活動 ※以上でDMAT要請は終了
		〃	2/13	1名(技師)	1名	技師	2/13-2/17検査技師1名 現地で活動
		〃	2/3	5名(JMAT)	5名	JMAT	2/3-2/6
		〃	2/10	1名(技師)	1名	技師	2/10検査技師1名 現地で活動
		〃	3/16	1名(JMAT)	1名	技師	3/16-3/19 1名派遣予定

岐阜	中濃	県	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/5公立能登総合病院(七尾市) 集合→市立輪島病院(輪島市)での病院支援指揮所本部活動及び外来診療業務、資材支援。
		〃	1/4	4名(1班)	4名	1班	1/4-1/7市立輪島病院(輪島市)で先遣隊から持参物品引継ぎ→輪島市内の避難所にて、避難者の健康調査及び生活環境調査。
		〃	1/17	4名(1班)	4名	1班	1/18-1/19輪島市内のライフラインの途絶えた高齢者施設から安全な別施設への搬送業務、自衛隊に同行しメディカルチェック等を行う。
		〃	1/27	4名(1班)	4名	1班	1/28-1/29 輪島市内の避難所での支援活動(医師1名・看護師1名・調整員2名)
久美愛	久美愛	JHAT	2/18	1名(臨工)	1名	-	2/18-2/27 JHAT(日本災害時透析医療協働支援チーム) 臨床工学技士 1名派遣
		県	1/2	6名(1班)	6名	1班	1/2-1/5公立能登総合病院(七尾市) 集合→能登町内の避難所支援、患者搬送及び公立能登総合病院内活動拠点本部にて病院間患者搬送支援。
		JHAT	1/11	1名(臨工)	1名	-	1/11-1/20 JHAT(日本災害時透析医療協働支援チーム) 臨床工学技士 1名派遣
		県	2/2	5名(1班)	5名	1班	2/2 (医師1名・看護師2名・調整員2名(うち1名薬剤師))
静岡	西濃	〃	1/4	5名(1班)	5名	1班	輪島市役所(本部)→医療班は孤立集落施設(門前地区)支援、業務調整班は、輪島市役所(本部)で避難者搬送調整等を支援。
		〃	1/25	5名(1班)	5名	1班	1/4-1/7公立能登総合病院(七尾市) 集合→珠洲市内の避難所調査及び支援活動。
		〃	2/2	2名(技師)	1名	技師	1/26 輪島市役所(本部) (医師1名・看護師2名・調整員2名) 1/26-1/27輪島市役所 本部支援活動、市立輪島病院 病棟支援活動
		〃	2/10	2名(JRAT)	1名	JRAT	2/10-12 石川県被災地域(現地対策本部支援業務及び避難所支援業務)
静岡	遠州	〃	2/16	2名(JRAT)	2名	JRAT	2/16-17 JRAT中央対策本部(東京) (JRAT中央対策本部におけるロジスティック業務)
		〃	2/2	1名(技師)	1名	技師	2/2-2/4 石川県珠洲地区
		〃	2/2	1名(技師)	1名	技師	2/2-2/4 石川県珠洲地区
		〃	2/2	1名(技師)	1名	技師	2/2-2/4 石川県珠洲地区
愛知	安城	県医師課	1/3	5名(1班)	5名	1班	1/3-1/7市立輪島病院(2次)
		〃	1/8	5名(1班)	5名	1班	1/8-1/12能登町役場(4次)
		〃	1/21	5名(1班)	5名	1班	1/21-1/26(6次)
		県看護協会	2/8	1名(看護)	1名	ナース	2/8-11 災害支援ナース
江南	江南	県看護協会	2/11	1名(看護)	1名	ナース	2/11-14 災害支援ナース
		〃	1/2	6名(1班)	6名	1班	1/2-1/5市立輪島病院(1次)
		〃	1/10	1名(来)	1名	ロジ	1/10-11 愛知県庁(名古屋空港SCUロジ)
		〃	1/13	1名(来)	1名	ロジ	1/13-14 愛知県庁(名古屋空港SCUロジ)
海南	海南	〃	1/18	1名(来)	1名	ロジ	1/18-19 愛知県庁(名古屋空港SCUロジ)
		〃	1/22	1名(来)	1名	ロジ	1/22 愛知県庁(名古屋空港SCUロジ)
		〃	1/21	5名(1班)	5名	1班	1/21-1/26(6次)
		〃	2/5	1名(来)	1名	ロジ	2/5-7 石川県庁
豊田	豊田	〃	2/9	1名(来)	1名	ロジ	2/9-2/12 石川県庁
		〃	2/12	1名(来)	1名	ロジ	2/12-15 石川県庁
		〃	2/2	1名(技師)	1名	技師	2/2-2/4 DVT検診(臨床検査技師)
		県看護協会	2/22	1名(看護)	1名	ナース	2/22-26 災害支援ナース
稲沢	稲沢	〃	1/2	4名(1班)	4名	1班	1/2-1/5能登総合病院(1次)
		〃	1/8	4名(1班)	4名	1班	1/8-1/14公立宇田津総合病院(4次)
		〃	1/20	4名(1班)	4名	1班	1/20-1/24(6次)
		〃	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/5石川県庁他 医師のみ1/7まで活動(1次)
足助	足助	〃	1/8	4名(1班)	4名	1班	1/8-1/12珠洲総合病院(4次)
		〃	2/2	1名(来)	1名	ロジ	2/2-2/8 石川県庁での本部活動(医師1名)
		〃	2/2	4名(技師)	4名	技師	2/2-2/5 DVT検診(臨床検査技師)
		〃	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/5能登総合病院(1次)
知多	知多	県医師会	1/21	1名(JMAT)	1名	JMAT	JMAT1/21-24看護師1名 稲沢市医師会その他職員と活動
		〃	1/3	5名(1班)	5名	1班	1/3-1/8柳田温泉病院(2次)
		〃	1/9	1名(栄養)	1名	栄養	1/9-1/12 JDA-DAT(栄養士学会災害派遣)七尾市で活動
		県医師会	〃	〃	〃	〃	JMAT派遣調整中(手上げ病院 江南、豊田、足助、稲沢)
三重	松阪	県看護協会	〃	〃	〃	〃	災害支援ナースの派遣を調整中(日程や人員未定)
		県	1/1	1名(来)	1名	ロジ	1/1三重県庁
		〃	1/2	1名(来)	1名	ロジ	1/2、1/4三重県庁内
		〃	1/2	1名(来)	1名	ロジ	1/2-1/7石川県庁内
鈴鹿中央	鈴鹿中央	〃	1/2	1名(来)	1名	ロジ	1/2-1/7能登総合病院内
		〃	1/2	5名(1班)	5名	1班	1/2-1/5輪島病院へ派遣
		〃	1/6	3名(1班)	3名	1班	1/6-1/9能登総合病院/穴水総合病院
		〃	1/11	1名(来)	1名	ロジ	1/11三重県庁
孤野	孤野	〃	1/15	1名(来)	1名	ロジ	1/15三重県庁
		〃	1/15	4名(1班)	4名	1班	1/15-1/19能登総合病院
		〃	1/16	1名(来)	1名	ロジ	1/16三重県庁
		〃	1/18	3名(1班)	3名	1班	1/18-1/225名(1班(松阪3名、菟野2名))(1名1/18-1/26、1名1/18-1/25、)
いなべ	いなべ	〃	1/27	3名(1班)	3名	1班	1/27-1/31 輪島病院
		〃	1/27	1名(来)	1名	ロジ	1/27-1/29 三重県庁
		県看護協会	1/29	1名(看護)	1名	ナース	1/29-2/3 災害支援ナース 石川総合スポーツセンター
		〃	2/7	2名(看護)	2名	ナース	2/7-2/12 石川県庁へ参集
大谷	大谷	〃	2/13	1名(看護)	1名	ナース	2/13-2/18 石川県庁
		県	2/14	3名(1班)	3名	1班	2/14-2/17 金沢スポーツセンター
		県看護協会	2/16	1名(看護)	1名	ナース	2/16-2/20 石川県庁
		〃	1/4	4名(1班)	4名	1班	1/4-1/7能登総合病院へ派遣
徳島	徳島	〃	1/12	3名(1班)	3名	1班	1/12-1/16 4名(1班(鈴鹿3名、菟野1名)) 能登総合病院へ派遣
		県看護協会	1/17	1名(看護)	1名	ナース	1/17-1/22 災害支援ナース 石川総合スポーツセンター
		〃	1/23	4名(1班)	4名	1班	1/23-1/27輪島市役所へ派遣
		県看護協会	1/29	1名(看護)	1名	ナース	1/29-2/2 災害支援ナース 石川総合スポーツセンター
山口	山口	〃	1/12	1名(来)	1名	-	1/12-1/16 4名(1班(鈴鹿3名、菟野1名)) 能登総合病院へ派遣
		〃	1/18	2名(来)	2名	-	1/18-1/225名(1班(松阪3名、菟野2名))
		〃	1/4	5名(1班)	5名	1班	1/4-1/7能登総合病院へ派遣
		県看護協会	1/21	2名(看護)	2名	ナース	1/21-1/24 災害支援ナース 石川総合スポーツセンター
徳島	徳島	〃	1/24	1名(看護)	1名	ナース	1/24-1/27 災害支援ナース 石川総合スポーツセンター
		県	1/2	1名(来)	1名	ロジ	1/2三重県庁
		〃	1/18	1名(来)	1名	ロジ	1/18三重県庁
		〃	1/12	4名(1班)	4名	1班	1/12-17能登医療圏DMAT活動拠点本部参集後、穴水町で活動。4名(医師2名、看護師2名)
吉野川	吉野川	〃	1/30	4名(1班)	4名	1班	2/1-2/4(活動日)4名(医師1名・看護師2名・薬剤師1名)
		〃	1/12	5名(1班)	5名	1班	(1/11出発)1/12-1/17公立能登総合病院集合→能登総合病院内で活動
		〃	1/21	1名(看護)	1名	ナース	1/26-1/31 支援ナース(看護協会)
		〃	1/24	4名(JMAT)	4名	JMAT	2/8-2/11 JMAT 4名
香川	香川	〃	1/22	4名(1班)	4名	1班	1/23-27拠点本部での活動又は避難所等での医療活動。4名(医師1名・看護師1名・業務調整員2名)
		〃	1/30	1名(看護)	1名	JMAT	1/31-2/2 看護師1名派遣 輪島市門前町にて活動
		〃	1/24	5名(JMAT)	5名	JMAT	1/25-27避難所等での医療活動。5名(医師2名・看護師1名・薬剤師1名・業務調整員1名)
		〃	2/14	1名(JMAT)	1名	JMAT	2/15-2/17 看護師1名派遣 能登地方を中心とした避難所等にて活動
高知	高知	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃
鹿児島	鹿児島	〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃
		〃	〃	〃	〃	〃	〃

注：黄色い網掛けは現在活動中、緑色の網掛けは活動予定を示す。

2. 厚生連の対応等

(3) 被災地（石川県）からの患者受入

都道府県	対象施設名	内容
富山	厚生連高岡病院 厚生連滑川病院	1/10、厚生連高岡病院が 石川県の療養型病院及び高齢者施設から患者10名の入院を受入。 患者の状態を見て順次10名全員を厚生連滑川病院に転院。
		1/19、厚生連高岡病院が 石川県の療養型病院から患者3名の入院を受入。 患者の状態を見て1/25、26に3名全員を滑川病院に転院。
愛知	江南厚生病院	1/10、江南厚生病院が3名の患者の入院を受入 石川県内の高齢者施設等から自衛隊航空機で移送

【参考】厚生連施設の被害

都道府県	対象施設名	内容
富山	厚生連高岡病院	停電や断水はないが、水質汚濁のため、手術や透析が一時的に中止 ⇒1/9から通常診療に復帰
新潟	けいなん総合病院 上越総合病院 三条総合病院 新潟医療センター	屋上看板の破損 建物にひび、機器の破損等あり 検査装置にエラー発生 駐車場の液状化

2.厚生連の対応等

厚生労働省からの患者の受入要請

医政地発0111 第1 号
令和 6 年 1 月11 日

各都道府県衛生主管部（局）長 殿 （石川県を除く）

厚生労働省医政局地域医療計画課長

令和 6 年能登半島地震における医療機関等からの
患者の受入れについて（協力依頼）

今般の令和 6 年能登半島地震については、必要な医療の確保に最大限の御尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

現在、被災地では被災者に対する必要な医療の確保に向けて様々な調整を行っているところですが、医療機関等の被災により、入院患者等について、適切に転院を行う必要が生じているところです。また、これらの転院希望者について、石川県内の医療機関への転院を行うことが困難な状況も生じていることから、石川県内からの貴都道府県における患者の受入れについて、御協力いただきますようお願いいたします。

照会先

厚生労働省医政局 地域医療計画課

災害等緊急時医療・周産期医療等対策室

厚生労働省DMAT事務局からの派遣要請

【緊急】能登半島地震対応：DMAT（3次隊）の派遣要請について
宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県
各県災害医療担当者各位

（情報共有のため、派遣要請対象で無い都道府県にも送付しております）

厚生労働省DMAT事務局

1月1日に発生した能登半島地震について、石川県からDMAT（3次隊）の派遣要請がありました。詳細は下記のとおりです。

記

- (1) 派遣要請都道府県：宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県のDMAT派遣を要請いたします。
- (2) 参集日時：1月6日（土）安全に到着出来るよう日没頃までを目処に参集願います。
- (3) 参集拠点：（石川県）能登医療圏DMAT活動拠点本部（能登総合病院内）
- (4) 出動可能なDMATについて、広域災害・救急医療情報システム【EMIS】に入力するようご指導方、よろしくお願いいたします。
- (5) 「スタッドレスタイヤ」での移動を必須とします。
- (6) 道路状況についてはEMIS緊急情報に掲載しております。

厚生労働省DMAT事務局 000-000-0000

●●●●●●●●●●@●●●●●●●●●●.com

2. 厚生連の対応等

(4) 医療コンテナを能登半島地震の被災地へ

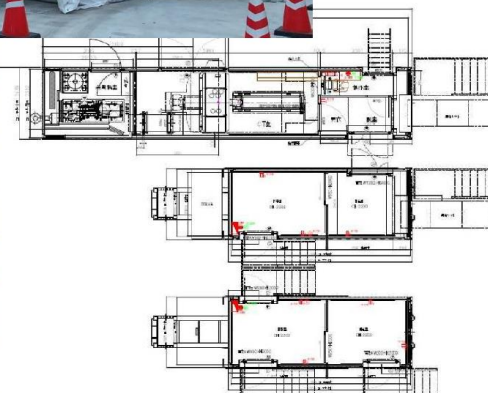
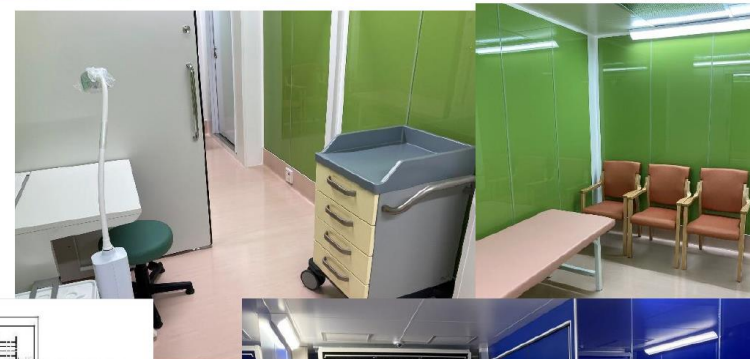
能登半島地震被災地の支援として、国は災害時の医療コンテナ活用に向けた取り組みを進めており、JA神奈川県厚生連相模原協同病院が所有するコンテナ型診療所1基も被災地に届けられた。

厚生労働省によると、石川県内の避難所などには1月31日現在、計21基の医療コンテナが配備されている。



2.厚生連の対応等

相模原協同病院



【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月5日(金) 日本農業新聞 総合3面12版遅 3ページ

JA全厚連は4日、6県の厚生連から、19病院の災害派遣医療チーム(DMAT)が能登半島地震の被災地へ入り医療支援していることを明らかにした。長野、新潟、富山、岐阜、愛知、三重の厚生連のDMATが、各県の要請に応じて2日から順次、石川県内の病院などで対応に当たっている。

富山県の厚生連高岡病院は2日から5人の医師、看護師、事務担

6県厚生連被災地入り 石川県内病院で医療支援

当者からなるチームを派遣した。施設損壊の深刻な能登地方の病院で、約40人の救急搬送を受け入れ、建物損壊の整理もし、4日に

つた損壊した過酷な状況下で懸命に対応した。被災地のためにできることをしたい」と話す。

全厚連は「災害の初期に活動できる専門的な訓練を受けた医師を中心とした医療チームが、早期に被災地のニーズに応えられるよう期待したい」とする。

2024年1月5日(金) 日本農業新聞 ワイド1 東海 11ページ

能登半島地震で医療チーム派遣
JA愛知厚生連
【あいち】能登半島地震の被災者救護のため、JA愛知厚生連は2日から、被災地の石川県に向けて災害派遣医療チーム(DMAT)6隊を派遣した。安城更生病院、江南厚生病院、海南病院、豊田厚生病院、稲沢厚生病院、知多厚生病院の職員計30人で構成。現地で活動を進めている。

2024年1月10日(水) 日本農業新聞 ワイド1 北海道 11ページ

能登の被災地
DMAT派遣
北海道厚生連
1日に発生した能登半島地震を受け、北海道厚生連は9日、被災地へ災害派遣医療チーム(DMAT)を送り出した。石川県内の病院で負傷者の救護に当たる。

チームは帯広厚生病院からの医師1人、看護師2人、事務1人で構成する。9日に石川県七尾市にある公立能登総合病院へ向けて出発。15日ごろまで対応する。北海道厚生連経営管理部は「被災地の早期復旧に貢献したい」と話す。第2陣の派遣など今後については、状況を見ての判断となるという。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月12日(金) 日本農業新聞 JA 5ページ

2024年1月13日(土) 日本農業新聞 ワイド1首都圏 13ページ

「救護にすぐ行けない」



各地の厚生連病院から災害派遣医療チーム(DMAT)が、石川県の能登半島地震の被災地に向き、医療支援をしている。被災地で救急医療に当たってきた医師や看護師たち、「二人でも命を救いたい」との思いで対応したJA病院の医療従事者らに語ってもらう。▼1面参照(4回掲載、今回は17日付)

JA愛知厚生連知多厚生病院手術室の沖田英人



愛知・知多厚生病院 沖田英人看護課長 中山間地の過酷な実態直面



搬送される患者 (石川県能登町で＝知多厚生病院提供)

看護課長(45)は7日までの4日間、建物も被災した七尾市の能登総合病院や能登町の柳田温泉病院などに行き、患者搬送の補助やカルテ作成、老人ホームで物資の運搬支援をした。沖田看護課長に実態などを聞いた。

——被災地の状況を教えてください。

能登町にある倒壊した介護医療院から避難した患者11人を町外の病院に搬送する支援を担当した。患者のほとんどが寝たきり状態だ。

中山間地で迂回ルートなどがない中、道路状況が悪く、タイヤのパンクや一般車両による渋滞などで、搬送に行きたい所に行けない。また、雨や雪で自衛隊が重要となる。

過去もDMATとして救護に当たったが、能登半島の現場は、熊本地震よりひどい状況だった。

中山間地で迂回ルートなどがない中、道路状況が悪く、タイヤのパンクや一般車両による渋滞などで、搬送に行きたい所に行けない。また、雨や雪で自衛隊が重要となる。

必要な所に必要な物が届くよう、より確実な情報を元に動いてほしい。例えば、柳田温泉病院の場合、ほとんどの人が普通の食べ物が食べられない中でカップ麺などが届いても意味がない。被災地のニーズに合わせた支援物資が必要だ。

今後、JA役職員が支援に入る場合、同じJAグループの厚生連病院の情報などを共有して患者に適切なサポートを行い、災害本部に新しい情報を上げて現場の状況を適切に伝えることが重要となる。

DMATは災害発生時に救急対応できる訓練をした医療チーム。JA全厚連によると、能登半島地震発生翌日の2日から順次被災地に入ったのは、11日までで12厚生連の33JA病院の医師ら217人になる。今後も要請を受け派遣を予定する。

のヘリコプターが飛ばずに、1時間程度車内で待機することもあった。

この他、ヘリコプターや救急車などで病院外に患者を搬送する際の補助や患者のカルテ作成、看護業務を行なったが、いずれも過酷な現場だった。

——今後、JAなどの支援で求められることは何ですか。

必要な所に必要な物が届くよう、より確実な情報を元に動いてほしい。例えば、柳田温泉病院の場合、ほとんどの人が普通の食べ物が食べられない中でカップ麺などが届いても意味がない。被災地のニーズに合わせた支援物資が必要だ。

今後、JA役職員が支援に入る場合、同じJAグループの厚生連病院の情報などを共有して患者に適切なサポートを行い、災害本部に新しい情報を上げて現場の状況を適切に伝えることが重要となる。

医療チーム派遣

JA神奈川県厚生連 相模原協同病院

【神奈川・厚生連】県へ災害派遣医療チーム(DMAT)を派遣する予定だ。

JA神奈川県厚生連の相模原協同病院は12日、1日に発生した能登半島地震の被災者を救護するために、石川

チームは医師、看護師ら5人で構成される。悟理事長は「早期復旧に向け任務を果たしてほしい」と話した。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月17日(水) 日本農業新聞 J A 7ページ



小貫かおりさん

「被災地ではどんな支援をしましたか。」
医師1人、看護師2人、放射線技師1人、臨床工学技士1人の5人で、輪島市内で活動した。8、9日に訪れた特別養護老人ホームは崩壊の恐れがあり、利

福島の白河厚生総合病院の看護師、小貫かおりさん(41)は、7、9日まで石川県輪島市で医療支援した。被災者が集まっている集会所のコロナ陽性患者や、特別養護老人ホームの患者らの搬送支援を実施。高齢者らを病院や他の施設に移動させた。被災地の状況を聞いた。



福島・白河厚生総合病院・看護師 小貫かおりさん 水・電気通じず厳しい寒さ

「施設の状況は。施設の医療スタッフも、自身が被災者でありながら入居者対応を余儀なくされていた。勤務の交代もできず働きづめの状況。施設看護師が漏らした「誰にも相談できず心細かった」という言葉が印象に残っている。入居者の食事は1日2回

用者らに移動してもらう必要があった。天候が悪く、とにかく寒さが厳しかった。水、電気が通じておらず、歩ける入居者は石油ストーブの周りに集まって暖めた。起き上がるのができない入居者には毛布を重ねたが、血圧測定などで毛布をめくると、体は冷えてしまっていた。

被災者は、もっとつらい思いをしている。普段の食事に近い物や温かい物を食べられるとほっとすると思うので、JAから食料物資の積極的な支援が必要だと感じた。

「自身の経験や必要な支援について教えてくださ



能登へ向け物資を積み込む白河厚生総合病院の医療スタッフら（福島県白河市で）

「何とかして暖めたい」

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月18日(木) 日本農業新聞 J A 5ページ



田中センター長

——これまで訪れた被災地と違いはありましたか。
DMATとして2011年の東日本大震災、19年の台風19号で活動したが、交通アクセスに課題を感じたのは初めてだった。
被災地に通じる国道に、緊急車両、支援車両、一般住民の車が集まり、渋滞が発生。通常なら2時間かからない道が病院到着まで8時間もかかってしまった。

J A長野厚生連佐久医療センター救急救命センターセンター長で医師の田中啓司さん(58)は、災害医療チーム(DMAT)の第1陣隊として能登半島地震の被災地で活動した。2、6日に、いち早く被災地に駆け付け、全国から集まったDMATに指示を出すリーダーを務めた。



「数十人透析できない」

長野・佐久医療センター 田中啓司救急救命センター長 交通の乱れ、ヘリ搬送に転換

DMAT第1陣隊の役割は、病院の状況を確認して支援のニーズを整理し、迅速に病院を正常な状態に戻すことだ。ヘリコプターで移動することを考えていくべきだった。出遅れたと感じた。
すぐに病院の医師や看護師のミーティングに参加して、情報共有に奔走した。
——到着時の病院の状況を教えてください。
かなり混乱していた。電気は通っていたが、上下水道は止まっていた。飲料水は枯渇しており、食料は1日分が残っているだけだった。医師や看護師も被災者で疲れ切っている様子だった。
入院患者は約120人。そのうち、数十人の人工透析が必要だったが、水がない病院では何も対応できない。DMATの隊員には、

DMATとは別に、被災地の厚生連病院に対して、近くの厚生連病院がすぐに人的、物的に支援できるように連携体制を築ければ、全国組織の強みを発揮できる。
DMATとは別に、被災地の厚生連病院に対して、近くの厚生連病院がすぐに人的、物的に支援できるように連携体制を築ければ、全国組織の強みを発揮できる。

通常、軽傷者や中等症患者は陸路で搬送するが、渋滞で断念。全入院患者をドクターヘリや自衛隊のヘリコプターで搬送した。
——災害時、J A厚生連にはどんな役割が求められると思いますか。
どこの病院も災害対策を練っているが、災害に慣れている病院はない。J A厚生連は全国組織であり、日本各地に厚生連病院がある。この体制を生かした支援体制を整えていくべきだ。



公立能登総合病院から珠州市総合病院へ移動するための経路などを確認する田中センター長(石川県七尾市で)

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月20日(土) 日本農業新聞 ワイド1 首都圏 11ページ

2024年1月19日(金) 日本農業新聞 ワイド1 信越 11ページ

能登地震 道路寸断、限られた医療機器…

DMA-Tが活動報告

JA長野厚生連北信総合病院

長野県中野市にあるJA長野厚生連北信総合病院は、能登半島地震を受けて、災害派遣医療チーム（DMA-T）を派遣した。同病院で17日、活動中間報告会が開かれ、現地に入った医師らが「道が寸断されていて、避難所にとどまり着くのに時間がかかった」「限られた医療機器での診察に苦労した」など、過酷な状況や活動内容を職員と報道陣に話した。



同病院は地震発生翌日の2日から7日まで2チーム9人を石川県に派遣し、珠洲市で救護活動に従事した。17日には3チーム目を派遣。輪島市内の避難所で新型コロナウイルス患者が増えていることを受けて、コロナ対策の支援に取り組む。

1チーム目は2～4日、珠洲市総合病院で救急外来を支援した。不整脈診療科部長で、隊長を務めた金城恒道医師は「水がなかったため、十分な検査ができない状況だった。診療ができたのは一部の人で、もっと診療したいという気持ちがあった」と、悔しさをにじませながら語った。

2チーム目は4～7日、珠洲市内の避難所支援を担当した。心臓血管外科医長で、隊長の酒井健司医師は「避難所に行く、把握していない新たな避難所の情報が出てくる。避難所にな

災害派遣「職場の協同あってこそ」

どりがく遺体が並んでいることもあったと、壮絶な現場の状況を報告した。同チームは、約124時間ぶりに救助された93歳女性の、珠洲市から金沢市への搬送も担当した。酒井医師は「救急隊や医療関係者が、みんなでつないだ命。搬送先の病院に着いたときは安心した」と振り返った。

防災・災害対策課の内田守道課長は、業務調整員として参加。珠洲市総合病院が高齢者の多い農村地帯にあり、北信総合病院と似ていることに触れ、「事前に現場のイメージができていた。訓練や日頃の業務を生かして迅速に支援ができた」と話した。

派遣のためには職場を一時的に抜けることになる。多くの隊員が「病院の職員が通常業務の穴埋めや調整をしてくれておかげで、支援活動ができた」と話した。北信総合病院の荒井裕国統括院長は、これを受けて「DMA-Tを派遣できるのは、病院で働く職員の理解と協同の意識があってこそ」と強調した。

同病院は4チーム目の派遣も予定する。

能登過酷な医療体制

JA神奈川厚生連 相模原協同病院 派遣チーム報告

【神奈川・厚生連】

した。

JA神奈川厚生連の相模原協同病院は、能登半島地震の被災者を救護するため、石川県に災害派遣医療チーム（DMA-T）を派遣した。19日に帰院し、病院スタッフに現地の状況と支援活動の内容、今後の課題などを報告

支援活動に当たった救急センター副センター長の菊地斉医師は「道路の陥没や水不足は、深刻な状況だった。今後、継続的な支援が必要だと強く感じた」と、現地の医療提供体制の過酷さを伝えた。

【能登半島地震】

被災の輪島市へ

DMA-Tが出発

JA岐阜厚生連

中濃厚生病院

【岐阜】JA岐阜厚

生連中濃厚生病院（関

市）は17日、能登半島

地震の被災者派遣医療

チーム（DMA-T）第

6次隊派遣の要請を受



被災地の支援に向けて意識を高めた出発式

2024年1月19日(金) 日本農業新聞 ワイド1 東海 11ページ

遣する出発式を開いた。同病院として第3陣の派遣となり、勝村直樹病院長は「病院に残る職員は、皆さんの活躍と安全を願っている。被災地のために頑張ってきてほしい」と激励し、チーム隊長を務める医師の仲田和彦副院長は「病院の代表として、被災者を一人でも多く救うため尽力したい」と述べた。

JA岐阜厚生連では、1日に発生した能登半島地震の医療支援活動のため、久美愛厚生病院（高山市）、西濃厚生病院（大野町）の2病院も、6人の体制でDMA-Tを編成し、1月2～7日に被害の大きかった七尾市、珠洲市で負傷者の救護に従事した。

今後も3厚生連病院のDMA-Tは、被災地への医療支援の派遣を予定している。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月24日(水) 日本農業新聞 J A 5ページ



熊谷洋子さん

——どのような活動をしましたか。
全国から参集したDMATへの派遣指示や、派遣要請のある場所への車両振り分けなどを補助した。能登総合病院の本部では、七尾市や珠洲市などのエリアを対象に活動した。
道路やガソリン燃料の確保などの情報収集を行う班

秋田市の秋田厚生医療センターの看護師・熊谷洋子さん(56)は8、9日に石川県七尾市の能登総合病院のDMAT活動拠点本部で隊員派遣などを行った。本部での医療活動などについて聞いた。



秋田厚生医療センター看護師・熊谷洋子さん 患者の搬送 道路破損も深刻

DMATの派遣などを取りまとめる本部(石川県七尾市で「秋田厚生医療センター」提供)



から聞き取りをし、派遣についての最終決定をする医師につないだ。
移動したDMAT隊が無事に到着したか、予定通りに撤収したか——といった情報の確認もした。隊員らが閲覧する広域災害救急医療情報システム(EMIS)のサイトも確認していた。

——被災地の状況は。

道路の破損や天候不良で患者搬送に時間がかかった。例えば輪島市から金沢市までは救急車で5時間がかかってしまうなど、効率的な搬送ができない状況。DMAT隊の車両も、破損

した道路に雪がかぶって気が付かず走行し、タイヤがパーストした事例もあったと聞いている。

——課題や現場で感じたことを教えてください。

課題は患者搬送などの車両不足。道路事情で1台の走行に時間がかかり、1日に搬送できる数は限られている。引き続き、救急車両の台数を確保していくなど切れ目のない支援が求められている。

当院からも17日から2隊目のDMATが能登へ出発した。能登は高齢者が多く、秋田県と近い環境。一人でも多くの被災者を助けたいという思いで、どの隊員も活動している。

地震発生直後のニュースをテレビで見て、現場で直接支援したかったが本部に派遣となった。しかし本部が適切な指示を出してこそ、現場でDMATが安全に活動できる。本部の重要性を再確認した。(おわり)

(岩下響、古庄愛樹、野村梨沙子が担当しました)

「一人でも命救いたい」

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月27日(土) 日本農業新聞 ワイド1 東海 11ページ

能登半島地震 DMAT被災地へ

6病院が派遣 栄養士なども

JA愛知厚生連

【あいち】能登半島

地震の被災地にDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣しているJA愛知厚生連は26日、同日までの概要を発表



被災地で活動をするDMATのメンバー
(JA愛知厚生連提供)

した。

派遣したのは同会の安城更生、江南厚生、海南、豊田厚生、稲沢厚生、知多厚生、6病院。地震発生翌日の2日から6次にわたり、延べ64人の医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務員を派遣した。当初は、被害の把握、重症者の対応や孤立した患者の搬送などに従事。現在は、各避難所の医療・介護ニーズに応じた対応を行っている。現地は医療の人手不足が

深刻なため継続的に派遣を続けている。

11日には江南厚生病院が被災地に入院していた患者3人を受け入れた。名古屋空港や愛知県庁にもDMATを派遣し、県内への患者の受け入れの搬送調整を行った。今後は、県内病院への陸路での患者搬送調整業務などに派遣する予定だ。

また、DMATとは別に、日本栄養士会のチームに管理栄養士、日本医師会のチームに看護師を派遣した。

同会は2011年の東日本大震災、16年の熊本地震にもDMATを派遣している。同会の担当者は「半島特有

の問題が多数発生し、これまででない課題が浮き彫りになった。知多厚生病院や渥美病院は半島に、足助病院は中山間地に位置する。地域の特性に基づいた訓練や災害対策を実施しているが、今回の教訓を踏まえて患者の2次避難方法を含めた新たな災害対策の構築を検討していきたい」と話した。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年1月27日(土) 日本農業新聞 ワイド1 東海 11ページ

持続的支援へ きょう第5班

JA三重厚生連
松阪中央総合病院

【三重】JA三重厚生連松阪中央総合病院は、1日に発生した能登半島地震を受け、厚生労働省DMAT(災害派遣医療チーム)事務局・三重県からの派

遣要請に基づき、DMATを派遣している。27日には第5班を派遣する。



2日に出発した第1班に続いて、これまでに第4班まで派遣しており、石川県輪島市の市立輪島病院や穴水町の公立穴水総合病院で延べ17人の病院スタッフが活動をを行った。また、特別班として3人が輪島市保健医療福祉調整本部、三重県DMAT調整本部での活動も行っている。

支援活動を行ったス

支援活動に向かうスタッフ

スタッフは「家屋倒壊や火災などによる被害は甚大で、一刻も早く必要な物資の確保、電力、水道などのインフラの迅速な復旧が求められている。避難が長期化しており、体調不良を訴える人も多く、被災者への支援が持続的かつ効果的に行われる必要がある」と話した。

JA三重厚生連では、鈴鹿中央総合病院と三重北医療センターいなべ総合病院も4日にDMATを派遣。鈴鹿中央総合病院、三重北医療センター菟野厚生病院、三重北医療センターいなべ総合病院は災害支援ナースを派遣している。

【富山】富山県JAグループは、発災直後から迅速に支援に動き出した。厚生連高岡病院は災害派遣医療チーム(DMAT)4班を石川県に派遣し、滑川病院と共に能登の患者を受け入れている。全農とやまは、「富富富」のバックご飯、黒豆茶、卵スープなど数万食に及ぶ食料や飲料をはじめ、マスクやティッシュ、ブルーシートなどの生活物資を、石川県と七尾市、志賀町に提供してきた。また、被害を受けたJA氷見市などの倉庫整理のため、全農本所とともに職員30人を派遣。穴水町にも職員を送り出し、ガスを使用できるよう支援している。全農とやまの西井秀将本部長は「一日も早く通常の生活を取り戻してほしい」と願う。

高岡病院のDMATは、医師や看護師、技師ら5、6人で一つの班をつくり、発災翌

日、高岡病院のDMATは、医師や看護師、技師ら5、6人で一つの班をつくり、発災翌

富山県JAグループ 医療・生活物資支える



氷見市の避難所で食事支援を行うJAなのはな、JA氷見市女性部など

氷見市の避難所ではJA氷見市女性部、なのはな女性部、全農とやまがキッチンカーなどで食事の支援を行った。JA高岡は2月3日に「頑張ろう伏木 復興祈念餅つき」を高岡市のあぐりっち矢田店で企画している。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年2月6日(火) 日本農業新聞 総合1面12版遅 1ページ

能登地震被災地へ 厚生連病院 際立つ初動

能登半島地震の被災地に全国の医療機関から派遣される災害派遣医療チーム（DMAT）。厚生連病院からの派遣が、特に地震発生直後に際立っていたことがJA全厚連の調査で分かった。発生翌日はDMAT全体の5～8割、3日後でも3割が厚生連病院からで、被災者の救急医療や健康支援の初動対応に貢献。全厚連は、派遣された医師らの声を聞き取り、今後の災害対応にも生かす方針だ。

▼2面に関連記事

DMATは、災害発生時に救急対応できる訓練を積んだチーム。医師、看護師ら5人程



震災発生から約124時間後に救出された93歳の女性を金沢市の病院へ緊急搬送するJA長野厚生連北信総合病院のDMAT隊員（石川県珠洲市で＝同病院提供）

発生翌日 DMAT全体の5～8割

度で構成し、災害発生時に県や厚生労働省DMAT事務局を通じて要請を受け、現場に駆けつける。

能登半島地震での派遣は延べ1000隊を超えている。このうち厚生連病院からは72隊396人（2日正午時点）が派遣された。

特に目立つのが、初動での派遣割合だ。災害発生後72時間を超えると生存率が大幅に下がることされるなど、発生直後の人命救助や医療提供の体制が災害対応の大きな鍵になる。

厚生連病院の数は、災害拠点病院やDMAT登録医療機関のうち5%程度。一方で、全厚連の調査によると、DMATのうち、厚生連病院からの派遣が占める割合は、地震発生翌日の1月2日午前10時時点で83%、午後2時で56%。72時間が迫る4日午後4時点でも30%超を占めるなど、初動対応の早さが目立っている。

全厚連は、派遣された医師や看護師らから意見を聞き取り、今後の災害対応への課題を探る方針だ。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年2月8日(木) 日本農業新聞 ワイド1 東海 11ページ

能登半島地震

DMA T 6次隊を派遣 JA岐阜厚生連久美愛厚生病院



被災地に出発する国本隊長ら

【岐阜】高山市のJA岐阜厚生連飛騨医療センター久美愛厚生病院は2月上旬、能登半島地震の被災地に、県災害派遣医療チーム(DMA T)の第6次隊として、医師や看護師ら5人を派遣した。DMA T隊長を務める国本圭市救急部長は「2回目の出動となる。より一層、業務の成果を発揮できるよう

任務を遂行したい」と話した。山本昌幸病院長は「2次災害には十分気をつけて、支援してほしい」と激励し出発を見送った。JA岐阜厚生連のDMA T派遣は今回で8回目。これまでに、同病院が2回、関市の中濃厚生病院が4回、大野町の西濃厚生病院が2回の、計38人を被災地に派遣した。

【参考】日本農業新聞による報道

2024年2月15日(木) 日本農業新聞 ワイド1 信越 11ページ

能登半島地震

DMA Tなど派遣活動報告

送のヘリコプターに関する定員や到着時間などの情報が錯綜し、準備していた通りに事が進まない。ヘリに医師と看護師が搭乗しているという話で、乗っていないこともあった」と混乱を振り返った。

2次隊で参加した救急科の宮村保吉医師は、現場を佐久地域に置き換えて「幹線道路と千曲川にかかる橋が全て使えない状況」と説明。仮に、佐久地域で同程度の地震が発生した場合、「グループ内医療施設の行き来ができない。どれくらいの勤務体制が組めるか、病院は何床を維持するかを考える必要がある」と強調した。

ドクターヘリは、1月5日と14日に派遣。フライトナースの岩崎弘子さんは「地名や病院の場所、距離感がつかめなかったため到着までかかる時間が分からず、時間調整に苦労した」と話した。

15日からは、災害リハビリテーションを支援するJRMATを石川県に派遣する予定だ。



▶陸路での搬送は困難なため、入院患者は空路で搬送した▲珠洲市総合病院に設置したDMA Tの活動本部(いずれも石川県珠洲市で)佐久総合病院グループ提供



長野県の佐久地域にあるJA長野厚生連佐久総合病院グループは、能登半島地震を受けて、災害派遣医療チーム(DMAT)とドクターヘリ、災害支援「入院患者の転院搬送の調整に

JA長野厚生連佐久総合病院グループ

過酷な現場、学び教訓に

長野県の佐久地域にあるJA長野厚生連佐久総合病院グループは、能登半島地震を受けて、災害派遣医療チーム(DMAT)とドクターヘリ、災害支援「入院患者の転院搬送の調整に」など、過酷な状況や活動内容を職員に共有した。地震発生当日の1月1日、佐久医療センターに災害対策本部を設立し、派遣する隊員を選出。隊員が現地で安全に活動できるよう、交通状況などの情報収集や宿泊手配に当たる体制も整えた。

1月2日から2月11日にDMA T5チーム、災害支援ナース2チーム、ドクターヘリを2回、石川県に派遣した。

報告会では各チームが説明した。DMA Tの1次隊6人は1月25日、珠洲市総合病院で活動。院内に全国から集まるDMA Tの活動本部を設置し佐久医療センターの医師がリーダーを務めた。1次隊は転院搬送や救急外来支援などを担当した。業務調整員として参加した臨床工学科の市川祐太さんは「搬

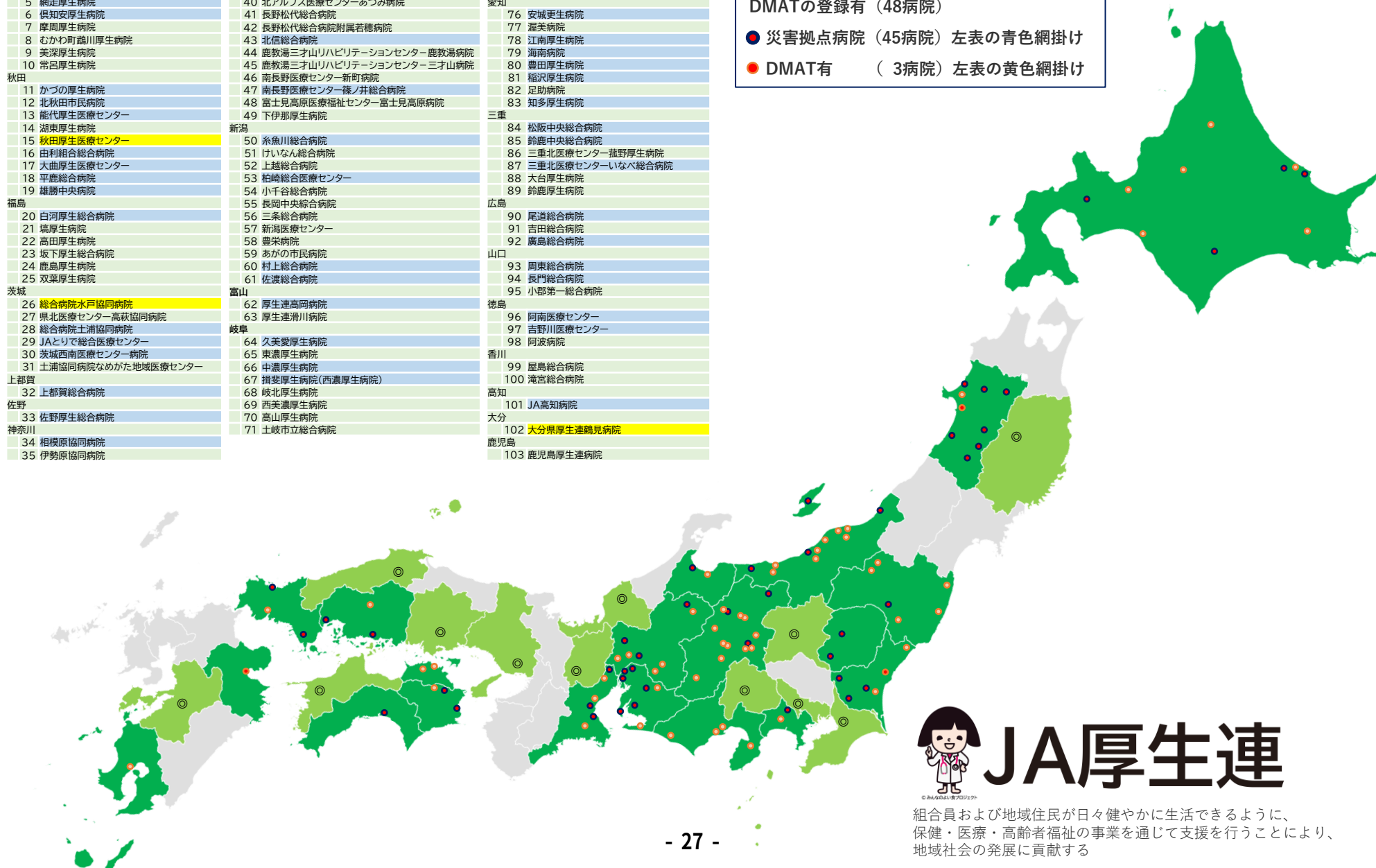
北海道			長野			静岡		
1	旭川厚生病院		36	佐久総合病院		72	JA静岡厚生連遠州病院	
2	帯広厚生病院		37	佐久総合病院佐久医療センター		73	JA静岡厚生連静岡厚生病院	
3	札幌厚生病院		38	佐久総合病院小海分院		74	JA静岡厚生連清水厚生病院	
4	遠軽厚生病院		39	浅間南麓こもろ医療センター		75	JA静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院	
5	網走厚生病院		40	北アルプス医療センターあづみ病院		愛知		
6	倶知安厚生病院		41	長野松代総合病院		76	安城更生病院	
7	厚田厚生病院		42	長野松代総合病院附属若穂病院		77	渥美病院	
8	むかわ町鶴川厚生病院		43	北信総合病院		78	江南厚生病院	
9	美深厚生病院		44	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院		79	海南病院	
10	常呂厚生病院		45	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 三才山病院		80	豊田厚生病院	
秋田			46	南長野医療センター新町病院		81	稲沢厚生病院	
11	かづの厚生病院		47	南長野医療センター篠ノ井総合病院		82	足助病院	
12	北秋田市民病院		48	富士見高原医療福祉センター富士見高原病院		83	知多厚生病院	
13	能代厚生医療センター		49	下伊那厚生病院		三重		
14	湖東厚生病院		新潟			84	松阪中央総合病院	
15	秋田厚生医療センター		50	糸魚川総合病院		85	鈴鹿中央総合病院	
16	由利組合総合病院		51	けいなん総合病院		86	三重北医療センター 菟野厚生病院	
17	大曲厚生医療センター		52	上越総合病院		87	三重北医療センター いなべ総合病院	
18	平鹿総合病院		53	柏崎総合医療センター		88	大台厚生病院	
19	雄勝中央病院		54	小千谷総合病院		89	鈴鹿厚生病院	
福島			55	長岡中央総合病院		広島		
20	白河厚生総合病院		56	三条総合病院		90	尾道総合病院	
21	塙厚生病院		57	新潟医療センター		91	吉田総合病院	
22	高田厚生病院		58	豊栄病院		92	広島総合病院	
23	坂下厚生総合病院		59	あがの市民病院		山口		
24	鹿島厚生病院		60	村上総合病院		93	周東総合病院	
25	双葉厚生病院		61	佐渡総合病院		94	長門総合病院	
茨城			富山			95	小郡第一総合病院	
26	総合病院水戸協同病院		62	厚生連高岡病院		徳島		
27	県北医療センター高萩協同病院		63	厚生連滑川病院		96	阿南医療センター	
28	総合病院土浦協同病院		岐阜			97	吉野川医療センター	
29	JAとりで総合医療センター		64	久美愛厚生病院		98	阿波病院	
30	茨城南西医療センター病院		65	東濃厚生病院		香川		
31	土浦協同病院なめがた地域医療センター		66	中濃厚生病院		99	屋島総合病院	
上都賀			67	揖斐厚生病院(西濃厚生病院)		100	滝宮総合病院	
32	上都賀総合病院		68	岐阜厚生病院		高知		
佐野			69	西美濃厚生病院		101	JA高知病院	
33	佐野厚生総合病院		70	高山厚生病院		大分		
神奈川			71	土岐市立総合病院		102	大分県厚生連鶴見病院	
34	相模原協同病院					鹿児島		
35	伊勢原協同病院					103	鹿児島厚生連病院	

J A 厚生連病院位置図 (103病院) 令和5年4月1日時点

DMATの登録有 (48病院)

● 災害拠点病院 (45病院) 左表の青色網掛け

● DMAT有 (3病院) 左表の黄色網掛け



JA厚生連



組合員および地域住民が日々健やかに生活できるように、
保健・医療・高齢者福祉の事業を通じて支援を行うことにより、
地域社会の発展に貢献する

□通信員だより□

令和6年能登半島地震被災地へDMAT出動

(JA秋田厚生連・かづの厚生病院)

DMAT (ディーマツト) とは、災害派遣医療チーム (Disaster Medical Assistance Team) の略称で、「災害急性期に活動できる機動性を持った訓練を受けた医療チーム」と定義されています。医師、看護師、業務調整員 (医師、看護師以外の医療職及び事務職員) で構成され、大規模災害等が発生した際に出動し、災害現場で活動を行います。

1月1日、能登半島で最大震度7の地震が発生し、石川県等での甚大な被害に対しDMAT出動要請があり、かづの厚生病院 (吉田雄樹病院長) のDMAT隊員も医師、看護師、薬剤師、事務職員各1名ずつの計4名編成で出動しました。

1月11日に病院を出発し、1月12日より公立能登総合病院の本部付けで活動を行いました。周辺の福祉施設巡回や、能登総合病院から70km程離れた石川県庁との間で物資搬送等を行い、1月15日任務を終え帰院しました。

隊員からは「結成以来、初の出動で緊張もしたが、施設での活動の際は感謝の言葉をいただき、支援にあたってよかったと感じた」と報告がありました。

被災地はいまだ終息を見通せない状況にありますが、多くの医療機関等の支援により、一日も早く復興されることを願っております。



DMAT隊員とDMAT活動拠点本部

(淡路明美通信員)

外来待ち時間短縮に向けての取り組み

(JA秋田厚生連・平鹿総合病院)

秋田県厚生連（小野地章一・代表理事理事長）では、外来待ち時間の短縮および院内の混雑緩和を目的に、令和5年4月の由利組合総合病院（軽部彰宏病院長）を皮切りに、順次外来運用変更を行っており、今年3月までに全病院完了する予定です。

平鹿総合病院（堀口聡病院長）は令和5年11月27日に運用変更を行いましたので、主な変更点についてご紹介します。

1つ目は、受付時に全ての患者さんに対してスケジュール票が発行されます。診察前に検査がある場合、各科受付窓口に立ち寄ることなく、直接検査に進むことができます。

2つ目は、会計の流れを変更しました。各科窓口で計算していた会計を集中会計窓口を集約し、さらに自動会計チェック機を導入したことにより、自動計算される場合は会計の待ち時間がなくなりました。

3つ目は、スマホアプリ Sma-pa の導入です。再来受付機と連動しており、スマホ診察券での診察受付や予約前日にお知らせが届くリマインド機能のほか、アプリにクレジットカード情報を登録して、受付後に「医療費あと払い」機能を設定すると、診察終了後は会計を待たずに帰宅することができます。

外来運用を変更して間もないこともあり、患者さんが戸惑わずに受診できるよう、丁寧な案内を心がけております。今後も待ち時間短縮に繋がる取り組みを継続しながら、さらに満足していただける病院を目指して参ります。



再来受付機



集中会計窓口

(淡路明美通信員)

救急医療機器を充実

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連（長谷川博史・代表理事理事長）は、全国共済農業協同組合連合会（以下、全共連）から、「救急・リハビリ医療機器助成」を受けて、総合病院土浦協同病院（河内敏行病院長）に生体情報モニタリングシステム（日本光電製）を導入しました。

これは、「JA共済の地域貢献活動」における交通事故対策に関する取り組みの一環で、JA関連医療機関の救急医療機器等を充実させ、被害者の救命や障害者の社会復帰支援を図っています。

今回導入したシステムは、今後稼働を予定しているEHCU（救命救急ハイケアユニット）に設置されました。心電図、心拍数、血圧、体温といったバイタルサインを継続的に測定・記録し、患者の状態に異常が発生した際はアラーム音が鳴り、周囲の医療スタッフに容態変化をいち早く知らせることができます。

こうした全共連との協同の取り組みにより、体制強化に努めながら、これからも救急医療に尽力していきます。



生体情報モニタリングシステム（日本光電製）

(酒井一彦通信員)

被災地へDMAT派遣

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

1月12日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、令和6年能登半島地震の被災地で医療支援活動を行っていた災害派遣医療チーム（DMAT）が活動を終えて帰還しました。

現地で任務にあたっていたのは、医師1人、看護師2人、業務調整員2人の計5人。県の要請に基づいて1月12日から19日まで、石川県珠洲市の珠洲市総合病院で、主に転院搬送調整、物資調達支援、ER・病棟支援などを行いました。菊地医師から活動の経緯や、断水のためシャワーが十分に使えなかった事、道路状況が悪く自衛隊車両や空路ではないと行けない地域があり、被災状況の全てを把握しきれなかった等の報告がありました。渋谷病院長は「DMATの5人が元気に帰ってきたことがうれしい事で誇りに思います。慣れない災害の地での医療活動は大変だったと思います。ご苦労様でした」と労いの言葉をかけました。



DMAT隊員

(生沼貴彦通信員)

伊勢原市消防出初式に参加

(J A神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

1 月 7 日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）は、伊勢原市総合運動公園の自由広場にて、伊勢原市消防出初式に参加しました。地域の消防職員や消防団員に加えて、伊勢原協同病院の自衛消防隊も参加し、力強い分列行進を披露しました。

今回は、能登半島地震や羽田空港での事故を受け、一斉放水を無色の水で行うなど一部規模を縮小しての開催となりました。また、式典前に黙とうが捧げられ、追悼の意を表しました。式典では功績表彰をはじめ、消防車両の見学や、消防隊員による救助訓練が披露されました。今後も災害対策に力を入れ、有事に備えてまいります。



伊勢原市消防出初式の様子

(生沼貴彦通信員)

南長野医療センター篠ノ井総合病院 新病院整備第 2 期工事竣工祝賀会

（JA長野厚生連・南長野医療センター篠ノ井総合病院）

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は 2 月 16 日、2021（令和 3）年 10 月に着工した新病院整備第 2 期工事の完成を迎え、地元行政、JA 及び厚生連、施工関係者の方々にご臨席いただき竣工祝賀会を長野市において執り行いました。

今回の工事では、地下 1 階・地上 6 階の北棟を新築し「全室個室化」による患者さんのプライバシー確保や感染防止対策の強化をはかるとともに、予防医療の充実、リハビリテーション機能の強化、職員が働きやすい職場環境等の整備を行いました。

祝賀会では、JA長野厚生連経営管理委員会の神農佳人会長が「昭和 42 年に病床数 30 床で開設した病院が近隣住民の皆様、関係各位のご理解とご協力のもと、ここまで充実し、地域に欠かすことができない病院となった。地元農協出身として心強く感じている。また、新築した病棟は、感染症流行禍の経験を踏まえ全室個室対応するなど、全国的にも先進的な工夫を取り入れている。今後も地域の拠点としての役割を果たしていく」と述べました。



神農経営管理委員会会長挨拶

そのほか、病院を代表して南長野医療センターの宮下俊彦統括院長、関係行政代表として病院運営委員会委員長の荻原健司長野市長からご挨拶をいただきました。

また、本工事の設計・施工を担った企業各社の皆様に、2 年間にわたる長期工事にあたり卓越した知識とご経験を存分に生かし立派に竣工いただいたことへの感謝の意を表し、経営管理委員会の千國茂副会長から感謝状及び記念品を贈呈しました。

これにて、2013（平成25）年の第1期工事着手から足掛け11年に及ぶ新病院建築の総合竣工となりました。今後も地域の保健・医療・福祉の拠点として医療体制のさらなる充実と、地域の皆様の期待にお応えできるよう患者サービスの向上に努めてまいります。



千國経営管理委員会副会長から感謝状贈呈

（山岸愛通信員）

「検診車両 2 台」受贈

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連（宮本隆幸・代表理事会長）は、令和 6 年 2 月に「超音波検診車両 2 台」を JA 共済連熊本から寄贈された。

JA 共済連熊本の「地域・農業活性化積立金」を活用して導入したもので、組合員・地域住民が健康で安心して暮らせる豊かな地域づくりをすすめるため、主に住民健診で使用する。

今後も組合員及び地域住民の健康維持・増進のため、同車両を積極的に活用しながら健康管理活動に取り組んでまいります。



県内巡回時の交通安全を祈願

(多久弘高通信員)